

## 点検しましょう。ほこりを払ってキレイに年越し(九州・沖縄8県版) ～5年で35件、配線器具の火災事故～

配線器具<sup>※1</sup>による事故が毎年発生しています。2014年度から2018年度までの5年間にNITE(ナイト)に通知のあった製品事故情報<sup>※2</sup>では、配線器具の事故は九州・沖縄8県で47件<sup>※3</sup>ありました。この47件のうち、35件(74%)が火災事故です。配線器具の火災の中で最も多いのは、ほこり、水分の付着によるトラッキング現象<sup>※4</sup>による事故です。

配線器具の火災は使用者の誤った使い方などによる事故が目立ちます。差込口やその周辺にほこりをためない、水気のある場所での使用を控えるなど、使い方において注意すべき点があります。年末の大掃除の際に、ほこりを払ったり、配線器具を点検したりするなどして、事故を未然に防ぎましょう。

### ■配線器具の主な事故事例

- ・コンセントにテーブルタップの電源プラグを長期間持続していたため、接続部にほこりなどが蓄積し、トラッキング現象が生じて製品及びその周辺を焼損する事故が発生した。
- ・テーブルタップに接続可能な最大消費電力を超える電気製品(電気ストーブと電気カーペット)を接続していたため、電源プラグ内部が異常発熱し、製品及びその周辺を焼損する事故が発生した。

### ■配線器具の火災事故を防ぐポイント

- 電源プラグはしっかり差し込み、ほこりなどがたまっていないか確認する。
- 電源タップやコンセントの接続部分に水分が付着しないよう注意する。
- 電源コードを引っ張ったり、机の脚で踏んだりするなど、無理な力を加えない。
- 接続可能な最大消費電力を超えて使用しない。
- 異臭や変色などの事故の予兆を見逃さない。

### ■異常時の対処法

- 発煙や火花などが生じた場合、コンセントから電源プラグを抜く。触れることができないほど熱い場合は部屋のブレーカーを落とす。

(※1)テーブルタップ、延長コード及びマルチタップなど。詳細は本部作成のプレスリリース2ページ目参照

(※2)消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故情報に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※3)重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(※4)付着したほこりや水分により電気の通り道(トラック)が生成され、異常発熱する現象(詳細は本部作成のプレスリリース3ページ目を参照)。

## 1. 配線器具の事故発生状況

NITEが収集した製品事故のうち、2014年度から2018年度までに九州・沖縄8県で発生した配線器具の事故47件について、事故の発生状況を示します。

### 年度ごとの製品別事故発生件数

図1に九州・沖縄8県での配線器具の事故における「年度ごとの製品別事故発生件数」を示します。

配線器具の中でもテーブルタップの事故が毎年多くを占めています。

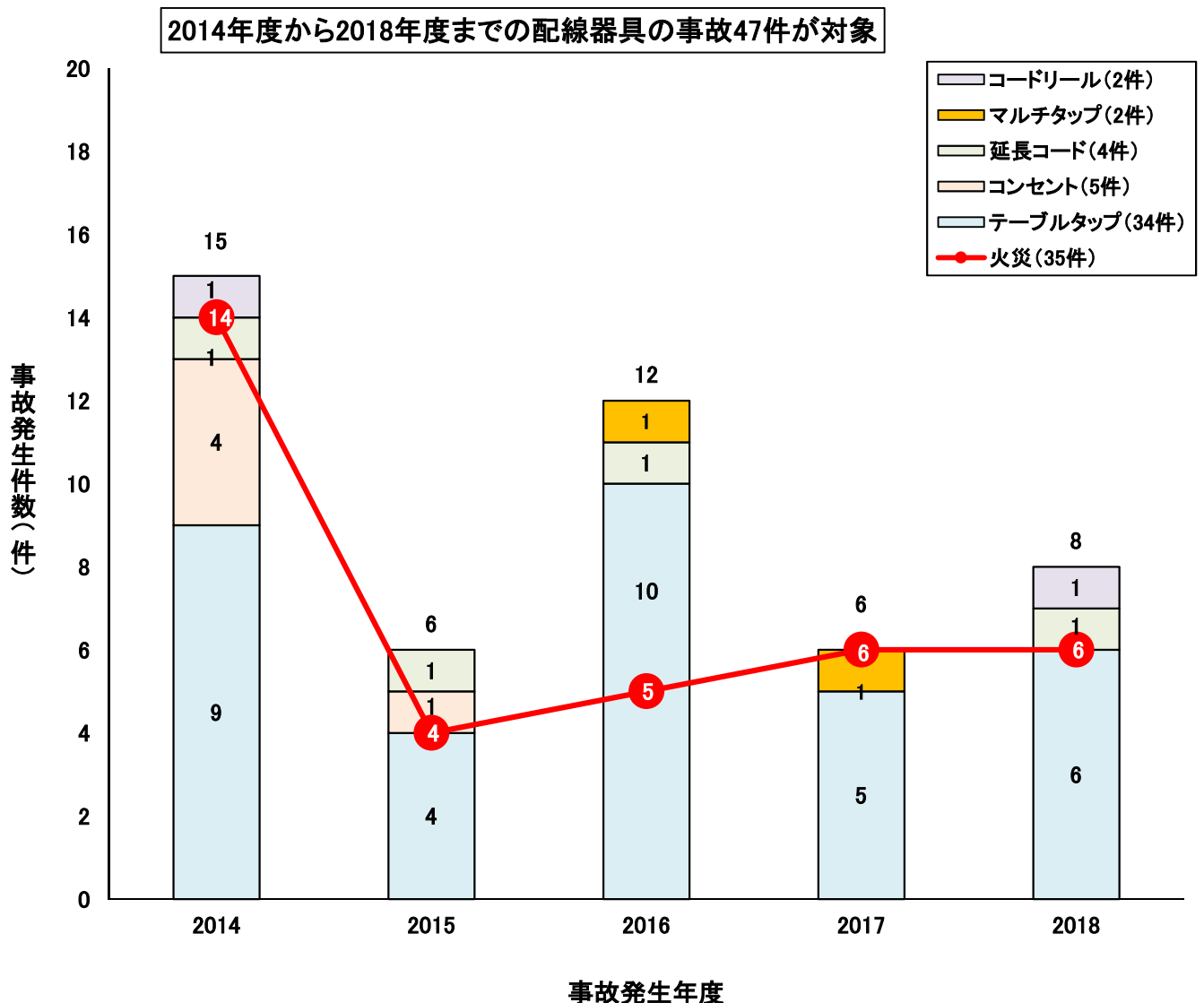


図1 九州・沖縄8県での年度ごとの製品別事故発生件数

## 2. 配線器具の火災事故発生状況

### (1) 火災事故の発生状況

配線器具のうち、火災事故情報 35 件について、事故原因や被害状況などを示します。

#### (ア) 事故原因区別の事故発生件数

九州・沖縄8県での配線器具の火災事故 35 件のうち、調査が完了した 29 件について、図2に「事故原因区別の事故発生件数」を示します。

- 製品に起因する事故 0 件
  - 製品に起因しない事故 14 件(48%)
  - 原因不明なもの 15 件(52%)
- となっています。

製品に起因しない事故が 14 件(48%)発生しており、使用者の誤使用や不注意による事故が全体の 71%(10 件)を占めています。

2014年度から2018年度までに配線器具の火災事故35件のうち、調査が終了した29件が対象

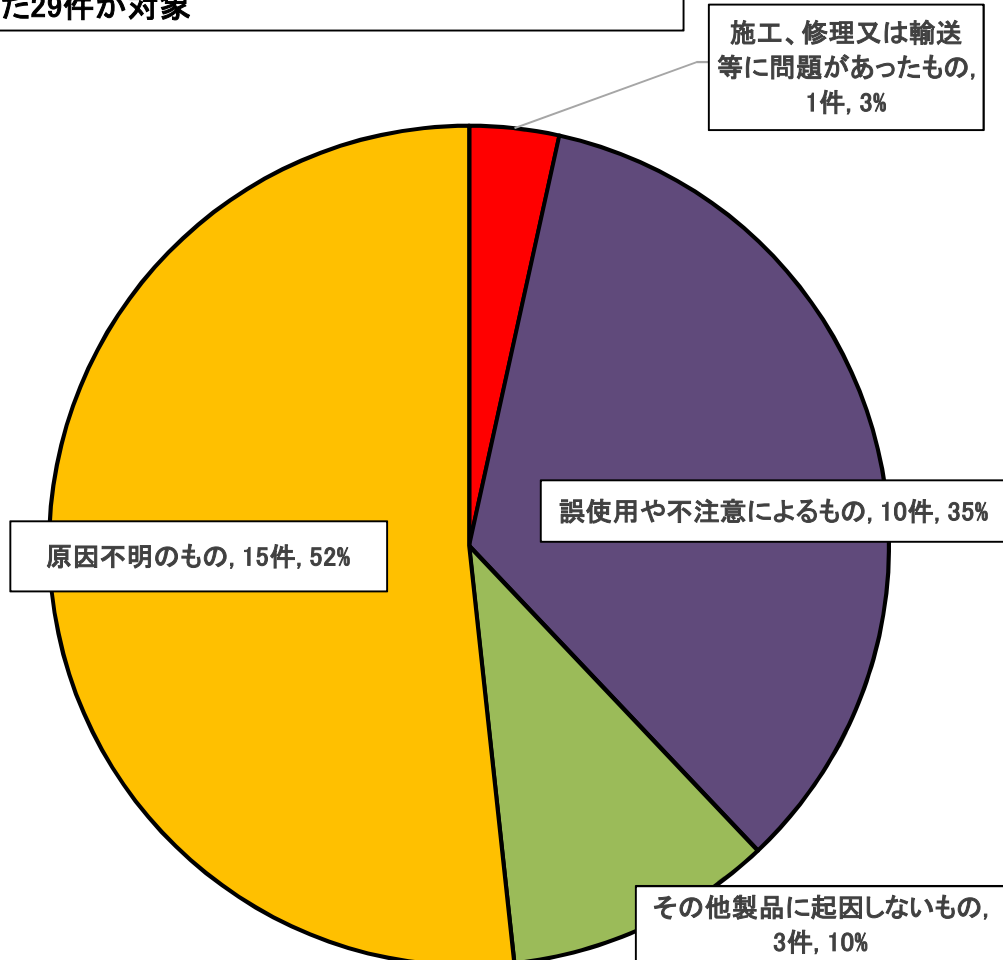


図2 九州・沖縄8県での事故原因区別別 事故発生件数・割合

(イ) 事故発生状況別の各被害状況における事故発生件数

表1に九州・沖縄8県での配線器具の火災事故 35 件のうち、使用者の誤使用及び誤使用と推定される事故 10 件の「事故発生状況別の各被害状況における事故発生件数」を示します。

ほこり、水分の付着によるトラッキング現象の事故が最も多く発生しています。コンセントや電気タップ周辺を定期的に清掃しましょう。

表1 九州・沖縄8件での火災事故の発生状況別 各被害状況別 事故発生件数<sup>※5</sup>

事故の発生状況	被害状況	人的被害			物的被害		総計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	
ほこり、水分の付着や液体などの浸入でトラッキング現象が発生して異常発熱				1 (1)	4	1	6 (1)
接続可能な最大消費電力を超える電気製品を接続して異常発熱						2	2 (0)
電源コードやコードプロテクターに外から力が加わり、断線してショート					1		1 (0)
電源プラグに力が加わり、栓刃可動部に接触不良が生じて異常発熱					1		1 (0)
総計	事故件数	0	0	1	6	3	10
	被害者数	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(1)

(※5) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。( )は被害者数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

## 2. 配線器具の火災事故事例

### (ア) トラッキング現象による事故

2016年4月(沖縄県、年齢・性別不明、拡大被害)

#### 【事故の内容】

延長コード付近から出火し、周辺を焼損した。

#### 【事故の原因】

軒下で電気洗濯機に給電していた2本の延長コード間で、差込みプラグの両刃が溶断していることから、雨水や埃の影響でトラッキング現象が生じて出火したものと考えられる。

### (イ) 電源コードに外から力が加わり断線して出火した事故

2014年7月(熊本県、80歳代、女性、拡大被害)

#### 【事故の内容】

テーブルタップ及び周辺を焼損する火災が発生した。

#### 【事故の原因】

テーブルタップのコード部で、過度な屈曲等の機械的ストレスにより芯線の断線が生じ、通電により断線部で局部的に発熱、その後被覆が溶融又は炭化が進行して異極間の芯線が短絡し、出火に至ったものと考えられる。

### (ウ) 接続可能な最大消費電力を超えた使用による事故

2015年2月(福岡県、年齢不明、性別該当なし、製品破損)

#### 【事故の内容】

遊技施設でテーブルタップに複数のディスプレイモニターを接続して使用中、テーブルタップ及び周辺を焼損する火災が発生した。

#### 【事故の原因】

テーブルタップは、接続可能な最大電力(1500W)を大きく超えて多数のディスプレイモニターを接続(最大2160W)し、使用(約10年間)していたため、過電流により電源プラグ部の栓刃カシメ部が異常発熱して出火したものと考えられる。

なお、本体表示には、「合計1500Wまで使用できる」旨、記載されていた。

### 3. 配線器具の事故に関する実験映像の提供

配線器具の事故に関する実験映像の写真及び動画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤+ロゴ」としてください。

※ n i t e ロゴ



(本件に関するお問い合わせ先)

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28  
独立行政法人製品評価技術基盤機構  
九州支所 技術課  
担当者 澤田、篠崎

電話:092-551-1315 FAX:092-551-1329

e-mail: [sawada-mitsuhiro@nite.go.jp](mailto:sawada-mitsuhiro@nite.go.jp)

e-mail: [shinozaki-kenzo@nite.go.jp](mailto:shinozaki-kenzo@nite.go.jp)